

研究紹介

道徳教育

人格の形成を目指し、 学校・地域全体で取り組む道徳教育

周防大島町立安下庄小学校長

池崎 勉



一 はじめに

子どもたちを取り巻く社会状況や環境がますます厳しくなる中、子どもたちの将来を見据え、「学力向上」の基盤として「豊かな人間性を育てる」との必要性が叫ばれている。学校教育において、「豊かな人間性を育てる」ためには、道徳の授業はもとより、各教科の指導や学級経営、生徒指導、地域との交流学习など学校の全教育活動を通して取り組むことが必要である。

本町小学校長会では、そうした考えのもと、子どもたちの将来に向けた生きる力の基盤として、「よりよき人格の形成」が重要であると位置付け、校内だけでなく、地域との連携や学校間連携も視野に入れ研究を進めてきた。

二 研究の概要

研究の視点を次の三点とした。

- ①校内において教職員の意識改革を進め、指導力を向上させるための校長の働きかけ

②保護者・地域との連携を図るための校長の働きかけ

③町全体で道徳教育推進の気運を高め、学校間で連携して推進するための校長の働きかけ

一年次は、実際に指導する教職員が道徳教育に対してどのような問題意識をもっているかを把握するため、町内全小学校対象にアンケート調査を行った。二年次は、その結果を基に、各学校、拡大集合学習、町全体で実践しているところである。

三 研究の実際

【チーム力で人材育成】

校長のリーダーシップの下、各学校で道徳教育の実践研究を行うのは当然のことである。しかしながら本町の小学校はいずれも小規模校で、複式学級を有し学級担任が三人程度という極小規模校も少なくない。校内での研修体制と指導体制の充実によって人材育成を目指すには限界がある。そうした課



題を乗り越えるため、本町では「拡大集合学習」を行っている。児童の学力向上と教職員研修の充実が眼目である。昨年度から、校長会では学力向上の基盤として道徳教育の充実が必要であると提言し、拡大集合学習の中に道徳の授業を位置づけている。

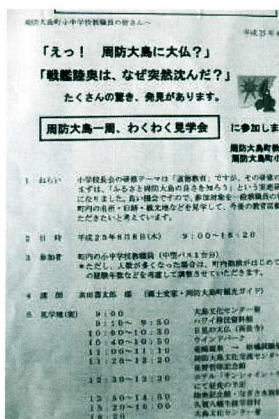
次に示す実践例は、三校合同のAFPYの授業である。いつもは数人での授業だが、この日は同学年の児童がたくさん集まり自ずと盛り上がった。同時にAFPYに堪能な教諭がT1を担当しているため、T2・T3の教諭も貴重な体験研修となる。こうした動きをリードしコーディネートするのも校長の役目と言える。

【町全体で推進】

本年度は沖浦小学校が中心となって道徳教育の実践研究を推進している。六月には、各学校の「道徳教育推進教師」が沖浦小に集合し、授業を通じた研修を行った。十一月の研究発表では、この先生方がファシリテーターとして活躍することになる。

【校長会の主催「町内見学会」】

教職員の中には町外から勤務する者も多い。周防大島のことをよく知らないのではないかと、という実態もあり、校長会では「ふるさとの良さを知り、道徳教育など今後の教育に生かしてほしい」という願いから「見学会」を企画運営した。当日は、たくさん申し込みもあり、大変盛り上がった。



四 おわりに

校長のリードにより、学校間連携や町全体での道徳教育推進の面で、啓発活動がしっかりとできた。道徳教育に対する気運も高まった。今後、そうした盛り上がりがあり、いかに各学校の実践に生かされたか、また結果として児童の人格形成にどのように反映されたか、解明していきたいと考えている。